

情報社会の歩き方



SNSの使い方に気をつけよう！

LINE, Instagram, Twitter, Facebook・・・, 情報の「発信, 共有, 拡散」に特化した, SNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)アプリが若い世代を中心に使われています。さまざまな人との交流が図れる一方で、一歩間違えると、トラブルの被害者や加害者になってしまう可能性があります。SNSを使うときには、次の2つを特に気をつけましょう。

1. 特定される情報を投稿しない。

メッセージアプリで、学校の友達からバトン(質問に答えながら、次の人へと回していくもの)が回ってきました。友達しか読めないから大丈夫という軽い気持ちで答えてしまうと、見ず知らずの人とつながる危険があります。このような場合、プライベートな情報をネットに載せないことが基本です。

「身近な友達同士でも個人情報を安易に答えない・回さない。」「友達追加設定やタイムラインの公開範囲設定を忘れない。」「非公開の内容は口コミやスクリーンショットをしない。」を徹底しましょう。



友達と海に行ったときに、スマホで取ってもらった写真が気に入り、親しい人たちとシェアしようと思って、SNSに写真を投稿しました。個人情報を書かなくても、写真の中の場所や地域の行事でも、生活範囲が特定されてしまう危険性があるのです。

ピースサインから指紋が判別されるくらいまで、カメラの性能が高まっています。今まで以上の注意が必要です。また、友達が映っているものを投稿すれば、たとえ投稿の許可をもらっていても、その友達を同じ危険にさらすことになります。



2. 迷惑行為や誹謗中傷を発信しない。

多くのSNSは、利用規約の中で脅迫や犯行予告などの迷惑行為や根拠のない悪口を言いふらす誹謗中傷を禁止しています。このような書き込みは、犯罪となる恐れがある他、訴えられる可能性があります。

「ネットならだれが書いたか分からない」という軽い気持ちで書きこむと、相手を深く傷つけるだけでなく、投稿者自身の大きな傷にもなります。やって得になることは、何一つありません。「デジタルタトゥー」と称されるほど、ネットに刻まれた情報は半永久的に残ります。正しい利用を心がけましょう。

